【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成28年11月24日(2016.11.24)

【公表番号】特表2014-526271(P2014-526271A)
【公表日】平成26年10月6日(2014.10.6)
【年通号数】公開・登録公報2014-055
【出願番号】特願2014-531330(P2014-531330)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　5/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｍ　1/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｍ　3/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　5/00
Ｃ１２Ｍ　1/00　ＺＮＡＡ
Ｃ１２Ｍ　3/00　Ａ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成28年10月3日(2016.10.3)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
幹細胞のための細胞培養系であって、前記細胞培養系は、
少なくとも０．３ｍＭのアルブミンを含む細胞培養培地と、
ラミニンおよびカドヘリンを含む基質と
を含み、前記ラミニンが、完全なタンパク質、または他のラミニン分子および基底板分子ならびに膜結合受容体に結合することができるタンパク質断片であり、
前記基質が、前記幹細胞に構造的支持体を提供し、
前記ラミニンがラミニン－５２１であり、
前記カドヘリンがＥ－カドヘリンであり、
前記ラミニン対前記カドヘリンの重量比が５：１～１０：１である、細胞培養系。
【請求項２】
前記アルブミンがヒト血清アルブミンである、請求項１に記載の系。
【請求項３】
前記基質および前記培地が、いかなる分化阻害剤も、フィーダー細胞も、分化誘導物質も、アポトーシス阻害剤も含有しない、請求項１に記載の系。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２０３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２０３】
次に、ラミニン－５２１およびＥ－カドヘリンの組み合わせは、組み合わせにより細胞のクローン性生存を保持することができるかどうかを決定するために試験した。固定量のラミニン－５２１を、滴定したＥ－カドヘリンと組み合わせて、細胞培養ディッシュのコ

ーティングに使用した。細胞のクローン性生存は、約１：１０ｗ／ｗ～約１：５ｗ／ｗを含む、Ｅ－カドヘリン対ラミニン－５２１の様々な比で達成された。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０２０４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０２０４】
ｍＴｅＳＲ１培地に対する様々な改変の効果を試験するために追加の試験を実行した。約１：１０ｗ／ｗの比の、Ｅ－カドヘリン対ラミニン－５２１の混合物を、プレートをコーティングするために使用した。予想外に、アルブミン濃度における２×の増加が、ラミニン－５２１／Ｅ－カドヘリンマトリックス上でのｈＥＳ細胞のクローン性生存を著しく改善したことが発見された。これらの条件下での、個々に区別されたｈＥＳ細胞生存の率は、１０～１５％であり、ｍＴｅＳＲ１培地およびアルブミンをさらに有するｍＴｅＳＲ１培地の両方において、Ｍａｔｒｉｇｅｌのみの上、ラミニン－５２１のみの上、またはＥ－カドヘリンのみの上の細胞のそれよりも少なくとも１桁高かった。細胞の経時的写真法により、ラミニン－５２１／Ｅ－カドヘリンコーティングが、様々な細胞の凝集を介してではなく単細胞の増殖を介して細胞生存を促進したことを確認した。ラミニン－５２１／Ｅ－カドヘリンは、同様に、組換えヒト血清アルブミン（ｒＨＳＡ）を追加した、十分に化学的に特定され、かつ異種由来成分不含ＴｅＳＲ２培地において細胞のクローン性生存を保持した。